



2026年7月8日

各位

会社名 Hmc o mm株式会社
代表者名 代表取締役社長 CEO 三本 幸司
(コード:265A、東証グロース市場)
問合せ先 取締役常務執行役員 CFO 土屋 学
(TEL. 03-6550-9830)

(開示事項の経過) コラボテクノ株式会社との統合進捗およびAI 駆動型開発・FDE モデルによる 事業シナジー創出に関するお知らせ

当社は、2026年5月11日付で子会社化したコラボテクノ株式会社（以下、「コラボテクノ」）との統合を進めておりますが、このたび、組織・開発・営業・実装の各面で基盤整備が完了し、当初想定していた事業シナジーの創出は、共同提案から個別案件化、そして下期の収益化へと進むフェーズに移行いたしましたので、その概要をお知らせいたします。

1. 統合の基本方針

当社は、コラボテクノの子会社化にあたり、開発機能の垂直統合と内製化による開発スピードの向上、ならびにAI BPaaSおよびFDE (Forward Deployed Engineer) モデルの事業基盤の確立を目的として掲げております。この目的のもと、以下の方針で統合を進めております。

- 当社が保有するAI技術・AIプロダクト（音声認識、音声感情解析、生成AI、音響解析）
- コラボテクノが保有するWeb/システム開発力および顧客現場における実装力
- 両者を統合し、AI駆動型開発およびFDEモデルの基盤を構築

当社は、コラボテクノを、当社AIプロダクトを顧客現場に実装するための「実装エンジン」であり、AI実装の内製化とFDEモデル・AI BPaaS展開の中核を担う存在と位置付けております。

2. 現時点の進捗

子会社化以降、以下の体制整備が完了し、それぞれ具体的な取り組みが始動しております。

- 組織連携体制の構築（グループ経営会議への参加開始、月次業績管理体制の統合）
- 開発・提案フローの共通化
- 顧客案件の共同検討の開始
- グループ横断での技術連携・営業連携の整備

3. 具体的なシナジー

現時点において、以下のシナジー施策がすでに始動しております。また、現時点における主な指標は以下のとおりです。

- AI・生成AI リスキリング対象者数：32名（コラボテクノの全エンジニアを対象）
- 共同提案先数：10社
- 下期に重点管理するシナジーパイプライン：6件

下期に重点管理するシナジーパイプライン6件には、共同提案中案件、PoC協議中案件および個別見積・提案段階の案件が含まれております。現時点で受注時期・金額は精査中ではありますが、当社はこれらを下期の重点管理案件として進捗管理しております。

(1) 既存顧客向けクロスセル案件の創出

両社の既存顧客基盤に対する相互提案を開始しております。その起点として、2026年5月および6月に、パートナー企業2社との間でそれぞれ業務委託基本契約を締結し、これに基づく個別案件の提案活動を開始しております。

(2) AI プロダクトへの実装機能強化

コラボテクノのエンジニアが当社AIプロダクト（Voice AI Agent、Terry、ZMEETING、FAST-D等）の開発への参画を開始し、実装機能の強化に着手しております。参画するエンジニアは今後順次拡大してまいります。

(3) 顧客現場における一気通貫対応の開始

顧客課題の把握・要件定義からAI設計、現場実装、導入・定着までを一体で担う提供体制を構築し、大手住宅設備メーカー様向けAI活用型CMS案件（2026年5月19日公表）において適用を開始しております。

(4) FDE モデルに向けた基盤整備

AI・生成AI領域へのリスクリングに向けた研修プログラムの整備に着手するとともに、FDE型案件への従事が始動しております。

(5) AI BPaaS 展開に向けた案件化準備

当社のAIプロダクトとコラボテクノの実装力を組み合わせたAI BPaaS（AIを活用した業務プロセス提供サービス）として、金融業界向けを中心に案件化に向けた準備を進めております。

4. 今後の収益インパクトの考え方

上記シナジーによる収益への寄与は、以下のとおり想定しております。

- 売上面：既存AIプロダクトの機能強化による競争力向上、およびクロスセル・共同提案による新規案件の獲得
- 利益面：開発体制の内製化・AI駆動型開発による開発効率化および生産性の改善

当社グループは、コラボテクノの顧客現場における実装力を活用し、従来の受託・人月型案件に加え、当社AIプロダクトの導入・運用改善・継続利用を前提とした高付加価値型案件への転換を進めてまいります。

また、中長期的には、FDEモデルおよびAI BPaaSの展開を通じて、継続課金型（リカーリング）収益比率の向上を目指してまいります。

本件は、グループ再編にとどまるものではなく、当社が目指す「AIプロダクトの提供から現場実装までを一体で担う事業モデル」への移行を具体的に前進させるものです。

5. 業績への影響

コラボテクノの業績は、2026年12月期第3四半期連結会計期間より当社の連結業績に取り込む予定であり、本件シナジーによる売上拡大効果および開発効率化・内製化による利益面への寄与について現在精査を進めております。現時点では保守的に通期連結業績予想を据え置いておりますが、下期に重点管理するシナジーパイプライン6件、共同提案先10社およびAI BPaaS初期案件の進捗を踏まえ、収益寄与について継続して精査を進めており、2026年8月14日予定の上期決算発表時に、その影響を含めた見通しを開示する予定です。今後、開示すべき事項が生じた場合には速やかにお知らせいたします。

以 上